



令和5年2月14日
海上保安庁

海底にゴジラ再び！？ 日本提案の海底地形名が国際会議で承認

世界の海底地形名を標準化するための国際会議において、我が国が提案した海底地形名14件（ゴジラメガムリオン関連地形名）が承認されました。

国際水路機関（IHO）とユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）が共同で設置する「海底地形名小委員会（SCUFN）」^{（※1）}が令和4年3月14日～18日（パリ）及び同年11月28日～12月2日（モナコ）に開催され、今般、2月13日に審議の結果が公表されました。

今次会議において、我が国が提案した海底地形名14件が承認されました。

今回承認された名称には、我が国が提案し、前回のSCUFNにおいて承認された「ゴジラメガムリオン地形区」内の特徴的な海底地形を対象に、同地形区をゴジラの身体に見立て、腕（アーム）、脚（レグ）、尾（テール）等、ゴジラの身体
の部位の名称が付与されています（ゴジラメガムリオン関連地形名、別紙参照）。

これらの海底地形名は、IHO/IOC 海底地形名集^{（※2）}に掲載されることで世界中に周知され、今後、地図・海図や論文などに使われることになります。

（※1）海底地形名小委員会（SCUFN）

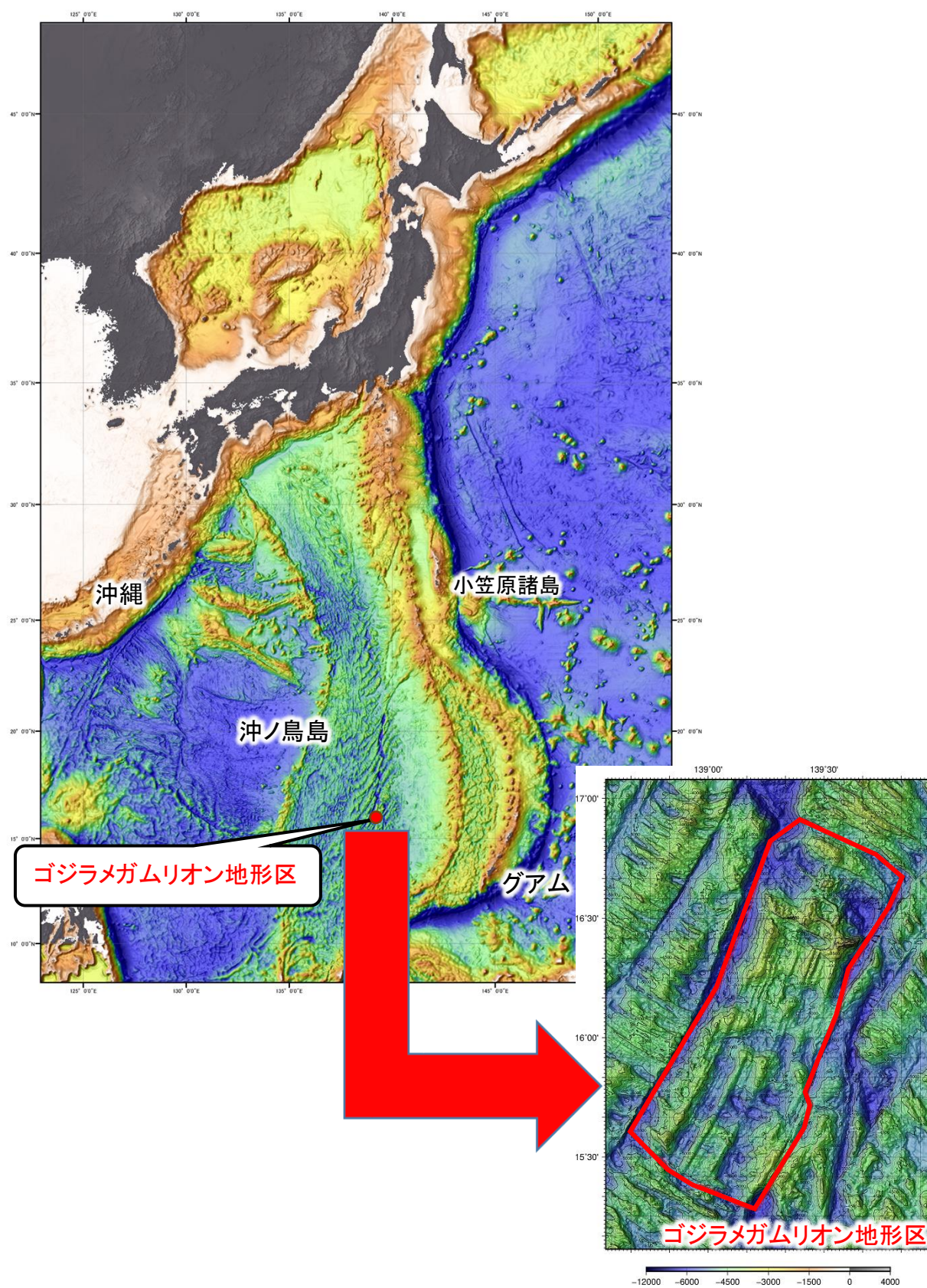
海底地形名小委員会（SCUFN）は、世界の海底地形名を標準化するための学術的な委員会です。誰でも、領海外の海底地形についてSCUFNへ提案することができますが、我が国では海上保安庁が委嘱した有識者で構成される「海底地形の名称に関する検討会」における検討を経て提案を行っています。海底地形には、原則として、近傍地名、船名、海洋に貢献した故人名・機関名等に因んだ名称を付けることができます。また、同類の海底地形の集合に対しては、星、鳥、暦等、グループの名称を付けることができます。

（※2）IHO/IOC 海底地形名集

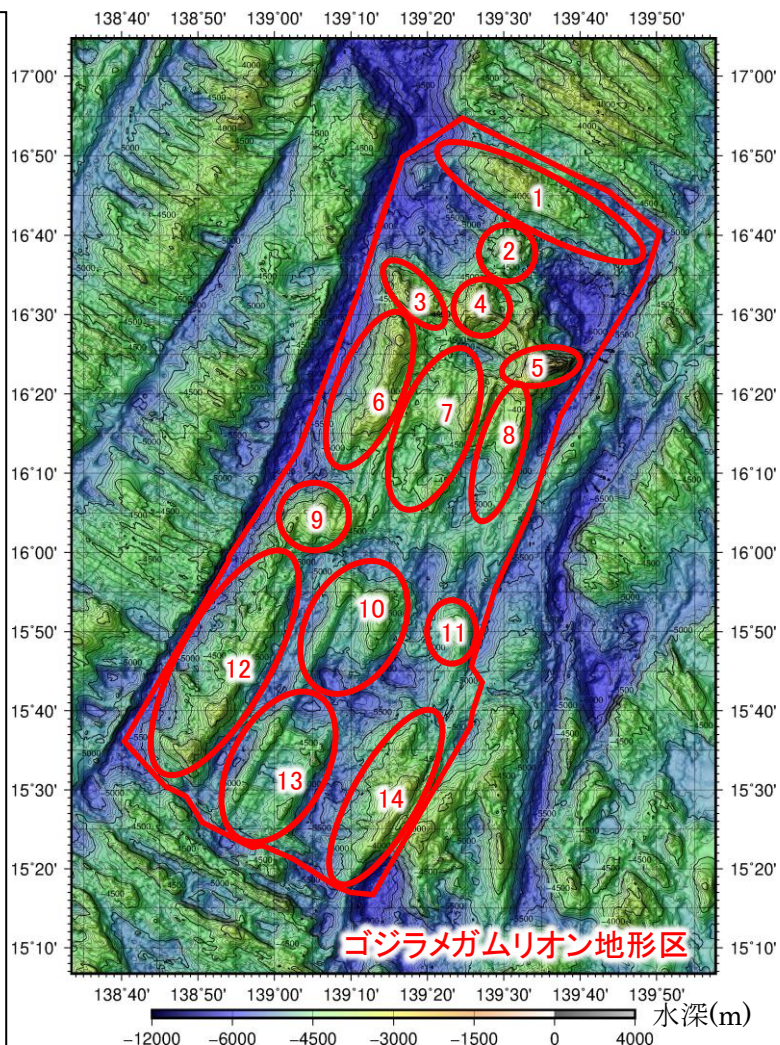
https://www.gebco.net/data_and_products/undersea_feature_names/

【別紙】

ゴジラメガムリオン地形区の位置



ゴジラメガムリオン関連地形名 (14 件)



1. ハット海嶺 (Hat Ridge)
3. 西ショルダー海嶺 (West Shoulder Ridge)
5. 東ショルダー海嶺 (East Shoulder Ridge)
7. バックボーン海膨 (Backbone Rise)
9. 西ヒップボーン海膨 (West Hipbone Rise)
11. 東ヒップボーン海膨 (East Hipbone Rise)
13. 南テール海膨 (South Tail Rise)

2. ヘッド峰 (Head Peak)
4. ネック峰 (Neck Peak)
6. 西アーム海膨 (West Arm Rise)
8. 東アーム海膨 (East Arm Rise)
10. 北テール海膨 (North Tail Rise)
12. 西レグ海嶺 (West Leg Ridge)
14. 東レグ海嶺 (East Leg Ridge)

【参考】

海底地形名の由来

(1) ゴジラメガムリオン地形区

メガムリオンとは、海底拡大に伴う大規模な正断層に伴い、海底面にマントル物質などが露出したドーム状の高まりで、その表面に畝状の構造を持つことが特徴である。

ゴジラメガムリオン地形区は、東京から約 2000km 南のフィリピン海プレート上にあり、2001 年、日本政府による大陸棚画定調査の際、沖ノ鳥島南東方で発見された。その大きさは、東京都の面積の約 3 倍、他のメガムリオンの約 10 倍もあり、現在見つかっているメガムリオンの中で地球上最大のものである。そのため、その巨大さから、東宝映画の怪獣「ゴジラ」の名が引用され、命名された。世界に分布するメガムリオンの中で、名称が国際的に登録されたのは、このゴジラメガムリオン地形区が初めてである。

ゴジラメガムリオン地形区は海洋科学において非常に重要な研究対象であり、日本を中心とする国際的研究グループによる調査の結果、フィリピン海プレートの組成・構造に関する重要な研究成果が得られている。

参照：<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/KENKYU/index.html>

(2) ゴジラメガムリオン関連地形名

ゴジラメガムリオン地形区に因み、ゴジラメガムリオン地形区をゴジラの体に見立て、同地形区内の背中から見たゴジラの各部位に当たる場所にある特徴的な海底地形にそれぞれその部位の名称を付与したもの。

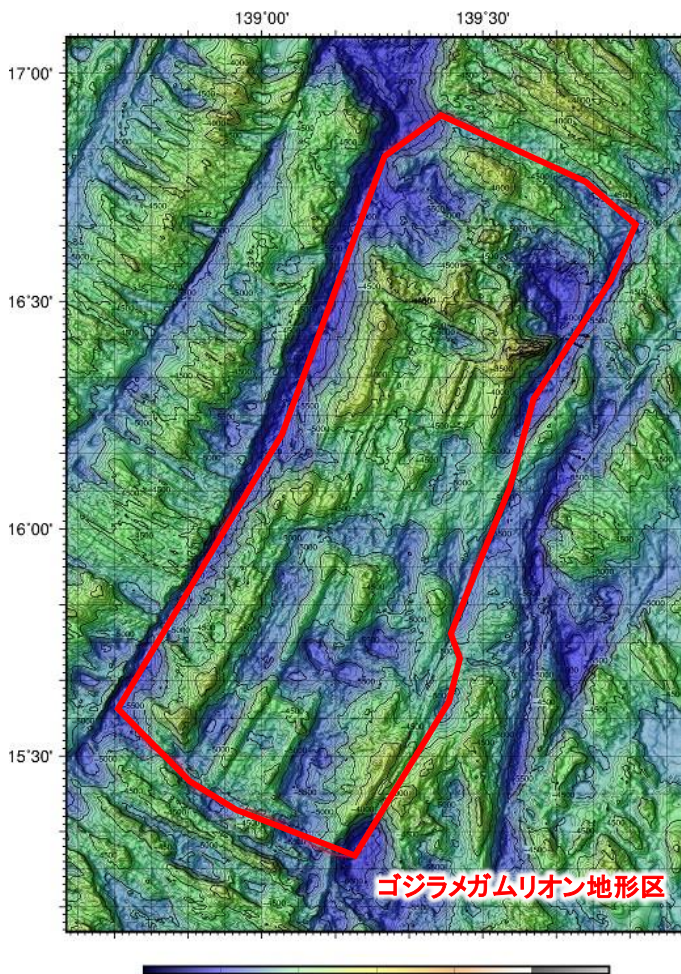


図 1：ゴジラメガムリオン地形区全体図

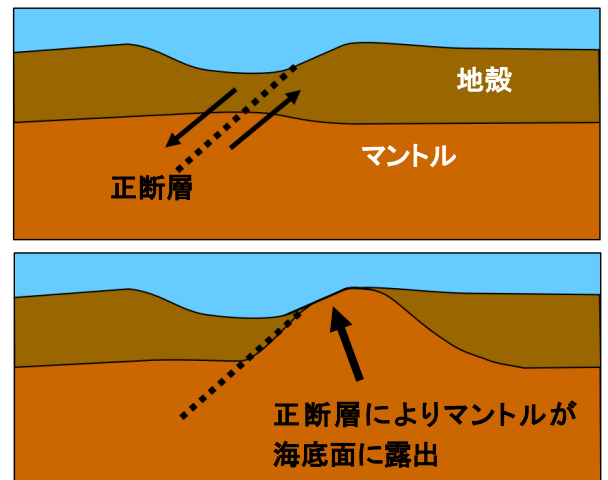


図 2：メガムリオンの成因 (Tuchokle et al., 1998 の図を改変)

正断層により、地殻の下のマントルが海底面に露出し、メガムリオンが形成される。